

～就労弱者への自立支援と社会とのつながりを つくる協働の取組～

NPO : 認定 NPO 法人キャリア・デザイナーズ（郡山市）

NPO 団体 HP : <https://npocd.jp/>

<認定 NPO 法人キャリア・デザイナーズの紹介>

～ 焦らず ゆっくり 歩み始めよう ～

認定 NPO 法人キャリア・デザイナーズは、ひきこもり、ニート状態の若者・壮年の社会参加・就労自立支援を行っている団体。2008 年に設立、2015 年に認定 NPO 法人となる。

<NPO 法人の設立経緯>

初代理事長の深谷昇氏（現会長）が、郡山ヤクルト販売株式会社社長を退任後、ハローワークからの依頼で若者の就労相談を始める。その当時は、リーマンショック、就職氷河期の時期と重なり、多くの若者が職場での人間関係に悩み、精神的にも追い詰められ、就職しても長続きしない状態を目の当たりにしながら、企業の求人紹介だけではなく、その先にある実践的な訓練の機会や心を落ち着けながら自立に向けた支援の場をつくりたいという思いから、法人を設立。

<企業等との主な協働の取組>

- 農福連携の取組
 - ・ 主な農作物：ピーマン、しいたけ、かぶ、ニンジンなど
 - ・ 内容：栽培、収穫、選果、袋詰め、軽作業など
- レンタル会社での軽作業
 - ・ 内容：レンタルで貸し出したイベント用テーブルの清掃作業など
- 清掃作業
 - ・ 内容：アパート共用部の清掃、安積歴史博物館やコアワーキングの館内清掃作業
- 作業所内での軽作業
 - ・ 内容：ヘルメットの緩衝材の取り付け、フリーマガジンの封入れ作業など



<主な関係先>

- 不動産維持管理
- フリーマガジン
- WE Bマガジン
- イベント用品レンタル
- 博物館
- コワーキングスペース
- ワイナリー
- 農業者（ピーマン、しいたけ、ニンジン等）

<協働の効果>

☆ NPO 法人、利用者

- 就労困難な状況にある方の就労機会の提供、自信や生きがいを持って社会と関わりを持つ機会の提供。
- 利用者と職員が複数人数のチームとなって活動を実施するため、他者とのコミュニケーション能力の向上が見込まれる。
- 体力や生活リズムの改善ができる。
- 利用者工賃の向上。

☆ 受入れ企業等

- 高齢化等により担い手が不足している農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性がある。
- 人手不足の解消、地域社会貢献の達成

□◆◇ 認定 NPO 法人キャリア・デザイナーズの農福連携について ◆◇□

～農福連携での 2 つの役割～

1. 農業分野、福祉分野のコーディネーション業務

2019 年度から郡山市「農福連携推進モデル構築事業」を公益社団法人日本フィランソロピー協会が受託し、現地コーディネーターとして連携したことがきっかけとなる。年間を通して農福連携ができる体制づくりや各セクター間の調整、意見交換の場、イベントの開催など、農業分野、福祉分野間のコーディネーション業務を実施している。

2. 就労体験、ジョブトレーニングとしての参加

<認定 NPO 法人キャリア・デザイナーズからのコメント>

回答：理事長 鈴木 隆将 氏

◎企業等との連携・協力について

初代理事長から加入している福島県中小企業家同友会（郡山支部）とのつながりが大きいです。さらには、同友会会員等からの紹介で会員以外の作業依頼もあります。新規の企業様には、「1日だけでも良いので、まずは体験させてください」とお声掛けをしています。

また、受入れ企業で働いている社員がなかなか手の回らないような軽作業の受託も積極的に進めています。企業等との協働は「小さく始めて、お互いに無理をしないこと」が継続のコツかもしれません。



◎農福連携について

例えば、ピーマンの場合、郡山市、三春町の福祉事業者 10 団体が参加しています。「収穫」が得意な団体や「選果」が得意な団体などがあり、それら共同で農作業を実施しています。利用者にとっても、関わった農作物がスーパーで販売しているのを目にした時に、単なる作業に終わらない、社会とつながっている感覚が実感できるのと思います。

◎町内会、地域住民との連携

町内会、高齢世帯などの地域住民とも連携もしています。町内会が管理する公園の草むしりや御用聞き事業として、地域の高齢者世帯などが困っている作業（自宅の草むしり、室内の荷物運搬など）のお手伝いをしています。町内会も高齢が進み、担い手不足が深刻です。ニート・ひきこもり経験者にとっても、作業を通して、地域の方と交流が増えることは、社会参加への第一歩となります。

◎シニア・ボランティアの活躍

当団体では、会社経営を引退された方がシニア・ボランティアとして、現在、10 名を超える方にご協力いただいています。社会経験の豊かなシニアと利用者が一緒に雑談を交えながら作業することで社会性を培い、一步一步、働く意欲を取り戻す機会となっています。

◎鈴木理事長が企業等との連携・協力を通じて実現したいこと・メッセージ

当法人では、多様な企業や個人との連携を通じて、利用者の社会参加の機会の拡大につながっています。具体的には、ニートやひきこもりなどの経験をもつ就労困難者に対し、職場見学、ボランティア活動、就労体験、ジョブトレーニング、さらには雇用の受け入れといった貴重な機会をご提供いただいております。こうした取り組みにより、利用者は徐々に就労への具体的なイメージを持てるようになるとともに、社会とのつながりを実感し、自分が社会の一員として役立っているという手応えを得ながら、少しずつ自信を育んでいます。

日頃よりご支援くださる企業・団体の皆様に心より感謝申し上げます。今後も連携を一層深め、就労困難者がより多くの場面で活躍できるよう取り組んでまいります。

<農福連携のパートナーコメント>

回答：株式会社希望ファーム様

Q.農福連携を始めたきっかけを教えてください。

当初は人手不足の解消が目的でした。

繁忙期にスポット的に労働力を活用することで、会社の発展に繋がると考えたことがきっかけです。

Q.農福連携を通して得られたことを教えてください。

実際に農福連携を始めてみると、障がいのある方やひきこもりの方など、就労が難しい方々が農作業を通じて活躍できる可能性を大いに感じました。労働力確保という視点に加え、彼らが活躍できる場をつくることへの支援意欲も高まりました。

<本連携事例から学ぶポイント>

農福連携事業は、障がいのある方だけではなく、ニートやひきこもり等の就労弱者も含め、農作業への参加を通して、社会参画を促進する取組となります。

農福連携は、今後、「生産」「加工」「流通」も含めた6次産業化や「福福ピーマン」のような特産品の開発等により、農産物の付加価値を高め、消費者、地域住民なども参加する農業の再生地域づくりにつながる可能性があります。

一方、昨今、農業分野だけではなく、多くの企業においても、労働人口の先細りが深刻となっています。そのような状況のなか、就労弱者の就労は今後ますます深刻化する人手不足などの社会課題の解決の一つとなるのではと思われます。同時に、多様な人材の包摂的な社会参加への実現に向けた支援活動の重要性は増していくものと推量されます。

本法人は多くのシニア・ボランティアが活躍しています。今回、法人事務所にお伺いした際にも、実際に多くのシニア・ボランティアの方が活躍されていました。会社経営から引退されたシニアがボランティア活動を通じて、社会とのつながりを持ち続けることにも大きな意義を感じます。

さらに、シニア・ボランティアだけでなく、多くのボランティア、地域住民などの支援者に支えられていると理事長は語ります。限られた人員と予算で社会貢献活動を実施するNPOにとって、多くの方の支援は欠かせないものです。ボランティア、寄付、支援者などの多くの支援によってNPO活動の幅が広がっていきます。